

令和3年度 嬉野小学校 校内研究

研究主題 自分の考えを表現できる児童の育成

～「書くこと」の指導を通して～

1 主題設定の理由

今回の学習指導要領の改訂では、これまでの「生きる力」を育むことを基に、新しい時代に必要となる資質や能力を育成することをねらいとしている。学びに向かう力や人間性等の涵養、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成を目指しており、未来や社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成することが求められている。

本校では、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。一方自ら解決していこうとする姿勢や、自分の考えに自信がもてず表現することに苦手意識をもっている児童が多い。そのため、グループや全体における活発な議論に欠ける面がやや見受けられる。これらの要因として、文章の構成や展開を考えることができなかつたり、書き表し方がわからなかつたり、語彙が少なかつたりすることが考えられる。

令和元年12月に行われた4～6年生の佐賀県学力・学習状況調査の結果、国語では「目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書いたり、自分の考えを書いたりすること」、算数では「示された情報を基に具体的な根拠を挙げて説明したり、求め方を説明したりすること」に課題がみられた。更に、記述式の活用問題で無回答率の高いことも課題である。

また、1～3年生のCRT検査の結果からも、国語の「書く事柄や順序を考えて書く」「文や文章を正しく書く」「目的に応じて構成を考えて書く」ことに課題が見られた。

そこで、これらの課題を受け、令和元年度から嬉野中学校区の小中学校が連携して、確かな学力の向上を図るために、「主体的・対話的な学び」を育成するための授業づくりと、全国及び県調査問題を活用した指導方法の改善、充実のための研究を行うことで、これからの時代を生き抜く資質や能力を身に着けた児童の育成につながると考え、研究してきた。

更に本校では、確かな学力の育成を目指し、学習の基礎となる「国語科」の研究を行うこととし、学習指導要領国語科の目標「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通し、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」を基に、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容「B書くこと」領域に焦点を当て研究に取り組んできた。研究の成果として挙げられることは、学習のゴールを設定することで児童の意識を継続できたこと、モデル文や技の提示、ペア対話の工夫などを取り入れて授業を行なったことで、文章の構成を考えて自分の考えを書いたり、構成を工夫して物語文を書いたりすることができるようになってきたことである。しかし、個人差が大きい、書けない児童への支援が十分にできなかった、交流において感想を伝え合うことに終始したなどの課題が残った。

そこで、今年度も研究主題を「自分の考えを表現できる児童の育成」とし、副題「『書くこと』の指導を通して」と設定し、研究を継続することにした。書く活動を通して考えが整理され、伝えたいことが明確になる中で考える力・判断する力・表現する力が身に付くのではないかと考える。今年度は、特に、身に付けさせたい力を指導するための手立てとして単元を貫く言語活動を設定し、ワークシートや手助けとなる掲示物などを工夫したり、交流活動を活性化させたりすることで文章の書き方がわかり、自分の考えを表現できる児童を育てていきたい。

2 研究の目標

国語「書くこと」の指導において、単元を貫く言語活動を設定し、自分の思いや考えが明確になるように文章の構成を考え、書き表し方を工夫させる授業づくりを通して、互いの立場や考えを尊重し、自分の考えを表現する児童の育成を目指す。

3 研究の内容

- (1) 単元を貫く言語活動を取り入れた学習過程を基にした「書くこと」の授業実践
- (2) 「授業づくりステップ1・2・3」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の育成
- (3) 全国及び県調査問題の活用を中心とした指導方法の改善, 充実

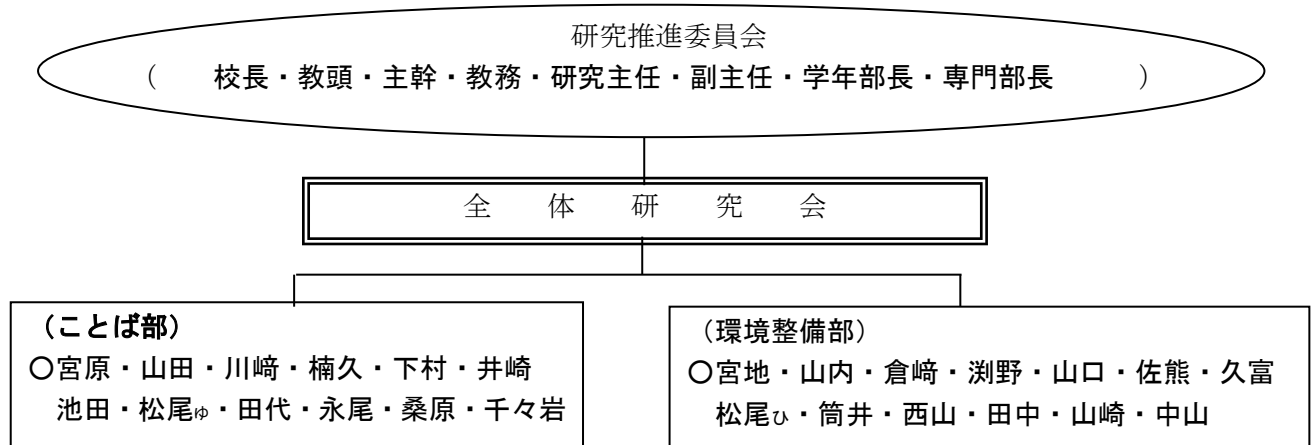
4 研究の方法

- (1) 全体研・グループ研による教材分析や単元計画等の授業実践
- (2) 指導案検討・模擬授業・事前授業・発問の検討
- (3) 文献及び, 講師招聘による理論研究

5 研修計画

期 日	内 容	期 日	内 容
5/12	今年度校内研究の提案 年間活動計画の話し合い 専門部会のメンバー決定 全体研指導案検討	夏休み	専門部会・全体会・教材研究
		9月	第2回全体研究会(全校研提案授業)
		11月	第3回全体研究会(全校研提案授業)
5/28	第1回全校研提案授業 樺山先生講演会	12月	校内研のまとめについて提案
6月～ 11月	学年G授業研究会 特別支援G授業研究会	1月	研究のまとめ原稿作成
		2月	研究のまとめ・来年度の研究

6 組織図



(学年部)

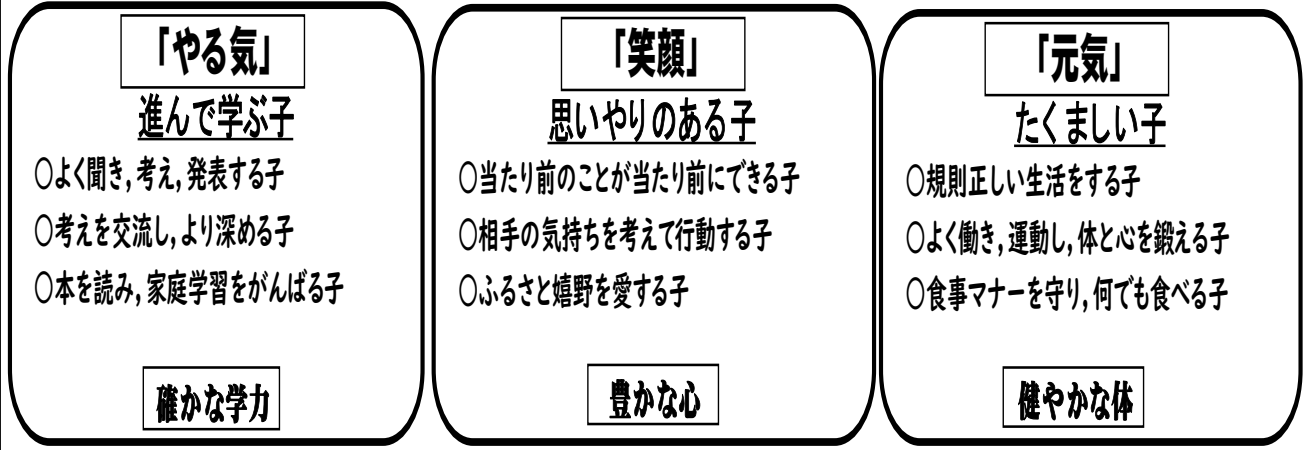
低学年	中学年	高学年	特別支援
○川崎・宮地・山田・楠久・山内・下村・河野	○山口・井崎・倉崎・池田・瀧野・筒井	○久富・宮原・松尾ゆ・佐熊・松尾ひ・田代	○千々岩・桑原・西山・田中・永尾・山崎・中山

専門部の活動内容

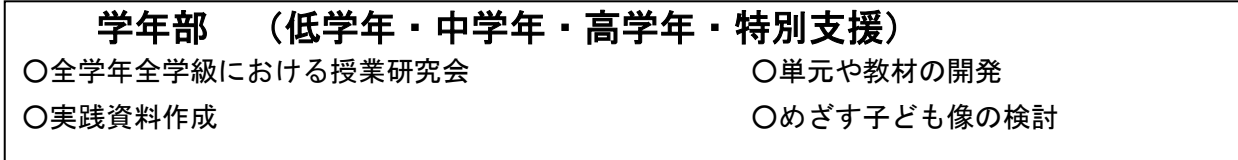
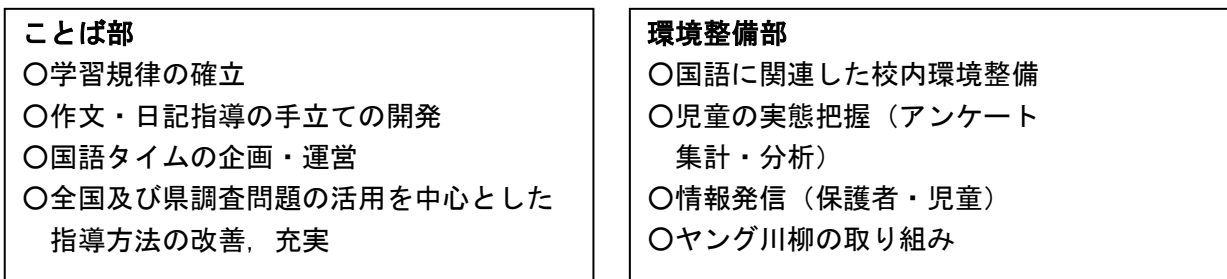
学年部	○全学年全学級における授業研究会 ○単元や教材の開発 ○実践資料作成 ○めざす子ども像の検討	
ことば部	○学習規律の確立 ○作文・日記指導の手立ての開発 ○国語タイムの企画・運営	
環境整備部	○国語に関連した校内環境整備 ○情報発信(保護者・児童)	○児童の実態把握(アンケート集計・分析) ○ヤング川柳の取り組み

学校教育目標
「やる気」「笑顔」「元気」いっぱい、未来へかがやく嬉野っ子の育成

こんな子に ～「時を守り 場を清め 礼を正す」～



研究主題 **自分の考えを表現できる子どもの育成**
 ～「書くこと」の指導を通して～



子どもの実態（書くことに関して）

- ・自分の考えを書くことが苦手な子がいる
- ・自分の思いや考えを豊かに書けない。
- ・個人差が大きい。
- ・語彙力が不足している
- ・言葉の使い方が正しくない

家庭・地域社会